

◎文学的精進を続けた文豪・井伏鱒二の全文業に迫る

# 井伏鱒二という姿勢

〔著〕東郷克美

(とうこう・かつみ)

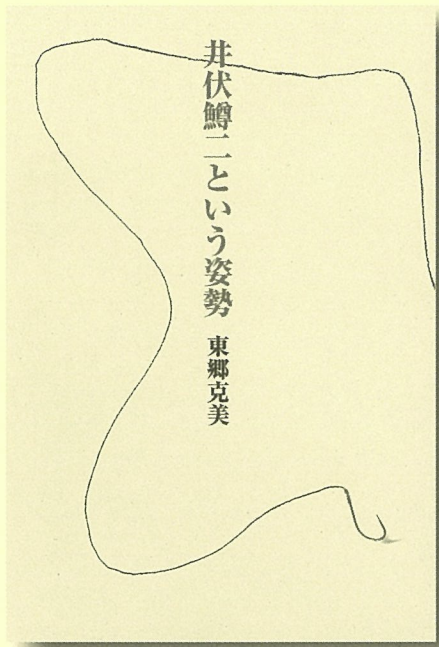
四六判／上製／カバー装／三二〇頁

●定価二、九四〇円(本体二、八〇〇円)

大正・昭和・平成、三代にかけて、倦まず弛まず文学的精進を続けた文豪・井伏鱒二の全文業に迫る。

処女作「幽閉」(名作「山椒魚」の原型、大正一二年)から不朽の名作「黒い雨」(昭和四一年)、晩年の大作「鞆ノ津茶会記」(昭和六一年)まで、井伏文学の主要作品・詩を論じている。

昭和初期、井伏文学は「余裕と飄逸とユーモアの文学」と評されたが、太平洋戦争を挟んで、大きな変貌を遂げてゆく。戦後の井伏は鋭い現実批判にかりたてられて、多くの傑作を書き残した。その変貌の過程を、著者は鋭い作品分析を通して明らかにしてゆく。「井伏鱒二の青春」(昭和四十年)から「井伏鱒二と甲州」(平成二十三年)まで、実に四十五年をかけて執筆された、多くの井伏論のなかから、著者自ら十五篇を精選した井伏文学探究の書である。



井伏鱒二という姿勢 東郷克美

## 本書目次から

- 《井伏鱒二》の出版——山椒魚の悲しみ
- 「くつたく」した「夜更け」の物語——「文学青年賽れ」の時代
- 改稿という方法——「山椒魚」と「鯉」の成立
- 川と谷間の文学——裏返されたモダニズム
- 「さざなみ重記」論——逃げていく記録
- 「多喜古村」の周辺——谷間から海辺へ
- 「へんろつ宿」小論——作品の奥行について

## 「悪夢」としての戦争——流離と抵抗

- 戦後の変貌——太宰治の死まで
- 間書きという姿勢——「山峡風物誌」を読む
- 「まげもの」の世界——鞆ノ津というトポス
- 井伏鱒二と甲州——釣りと文学
- 「黒い雨」再考——自然の治癒力あるいは言葉の戦争
- 「回除け詩集」の効用——三日不言詩口含荊棘
- 文体は人の歩き癖に似てゐる——追悼

申込書 (貴店印)	
申込締切	11月3日
新刊委託	部
[著] 東郷克美	
井伏鱒二という姿勢	
ISBN978-4-8433-4098-1 C3093	
定価2,940円 (本体2,800円)	
ゆまに書房 〒101-0047 東京都千代田区内神田2-7-6 TEL.03(5296)0491 FAX.03(5296)0493	
年	月 日

◆2012年11月9日刊行 ●広告予定●全国紙ほか

